(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3147569号
(U3147569)
(45)発行日　平成21年1月8日(2009.1.8)　(24)登録日　平成20年12月10日(2008.12.10)

(51)Int.Cl.　F I
B42F 1/02 (2006.01)　B42F 1/02 F

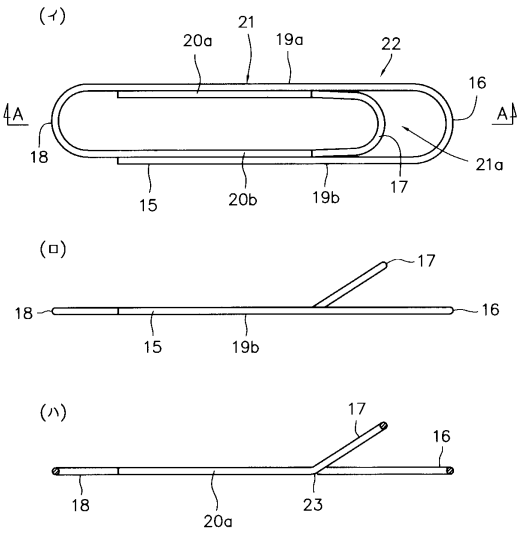
評価書の請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2008-7439(U2008-7439)
(22)出願日　平成20年10月23日(2008.10.23)

(73)実用新案権者　508318281
有限会社　恩田製作所
東京都葛飾区金町１丁目１４番１６号
(74)代理人　100087527
弁理士　坂本　光雄
(72)考案者　恩田　正明
東京都葛飾区金町１丁目１４番１６号　有限会社恩田製作所内

(54)【考案の名称】クリップ

(57)【要約】
【課題】　比較的厚いものにも容易に挟持させることができ、且つ挟持後は保持力を有して書類などからの脱落を防止できるようにする。
【解決手段】　ばね材１５を、所要長さの直線部と曲り部が連続して形成されるように平面状に折り曲げて、長手方向の一端側に、湾曲部１６と、該湾曲部１６の内側に湾曲部１７とを形成する。この湾曲部１６に連続する直線部１９ａ，１９ｂと内側の湾曲部１７に連続する直線部２０ａ，２０ｂとで、挟持部２１を形成する。上記内側の湾曲部１７寄りの直線部２０ａ，２０ｂでばね材１５を折り曲げて屈曲部２３を形成し、湾曲部１７を上方へ突出させる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
線材を直線部と曲り部が連続して形成されるように平面状に折り曲げて、長手方向の一端側に、長手方向の外側と内側の２つの湾曲部が形成され、且つ該２つの湾曲部から長手方向の他端側に直線部による挟持部が形成されるようにしてあるクリップにおいて、上記線材をばね材とし、且つ上記長手方向一端側における内側の湾曲部を、該湾曲部寄り位置の直線部でばね材を屈曲させることにより上方又は下方へ突出させるようにして、該突出させた湾曲部と上記外側の湾曲部との間を開くようにしてなることを特徴とするクリップ。
【請求項２】
長手方向一端側における内側の湾曲部寄り位置のばね材の屈曲部位置を、上記湾曲部が突出する側とは反対側の所要位置まで突出させてなる請求項１記載のクリップ。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、複数枚の書類などを挟持させて綴じておくために用いられるクリップに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
一般に、複数枚の書類などを挟持させて綴じておく器具として用いられるクリップとしては、ゼムクリップ、Ｗクリップ、目玉クリップと呼ばれるものなどがあり、それぞれ綴じる書類の厚みなどに応じて使い分けられている。
【０００３】
これらのクリップのうち、最もよく使用されるゼムクリップと呼ばれるものは、図４（イ）（ロ）に示すようなものが一般に市販されている。
【０００４】
従来より一般に市販されているクリップは、図４（イ）（ロ）に示すように、線材１を所要の長さの直線部と曲り部が連続して形成されるよう平面状に折り曲げて、長手方向の一端側に２つの湾曲部２と３を位置をずらして形成すると共に、長手方向の他端側に１つの湾曲部４を形成し、且つ上記長手方向一端側の２つの湾曲部２，３から長手方向他端側へ延びる線材１の直線部５ａ，５ｂと６ａ，６ｂとで挟持部７を形成するようにしてある。
【０００５】
上記従来のクリップを使用して複数枚の書類などを綴じる場合は、偏平状態にある一方側の湾曲部２と、この湾曲部２の内側の湾曲部３とを互いに反対方向に押し曲げるようにして湾曲部２と３をＶ字状に開きながら書類などの表裏両面に湾曲部２と湾曲部３を位置させるようにし、この状態でクリップを押し込んで複数枚の書類などを挟持部７で挟持させて綴じるようにしているのが実状である。
【０００６】
しかしながら、上記クリップの場合は、使用するときに、上記のように湾曲部２と３の間を開く操作が必要であること、この場合に、上記湾曲部２を、綴じようとする書類の片面に押し当てながら内側の湾曲部３を書類の反対面に沿わせるようにして挟持部７に書類を挟み込ませるようにする動作が必要であるが、上記湾曲部２を書類の片面に押し当てて湾曲部２と３の間を開く動作の途中で、湾曲部２が書類の片面からずれて外れたりすることがあり、書類の挟持が面倒であるという問題がある。
【０００７】
一方、長手方向一側の２つの湾曲部を同じ位置に形成するようにして、1つの湾曲部については、これを他の湾曲部から離れる方向に折曲させた形状のクリップも近年提案されている。
【０００８】

図５（イ）（ロ）はその一例を示すもので、線材を長手方向の所要位置で折り曲げることによって第１湾曲部８と重なるように第２湾曲部９を形成し、該第１湾曲部８に連なる第１直線部１０及び第２直線部１１と、上記第２湾曲部９に連なる第３直線部１２及び第４直線部１３とにより挟持部１４を形成させるようにしてある。

【０００９】

更に、上記第１湾曲部８を、該第１湾曲部８と第１、第２直線部１０，１１との境界部付近で折り曲げて、図５（ロ）に示す如く、第１湾曲部８と第２湾曲部９とを長手方向の外方へ向けて開くようにした特殊形状のものとしてある（たとえば、特許文献１参照）。

【００１０】

【特許文献１】特開２００７－３８４２８号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【００１１】

ところが、上記図５（イ）（ロ）に示すクリップの場合は、折り曲げられた第１湾曲部８と偏平状にしてある第２湾曲部９とがクリップ長手方向の一端側で同一位置に形成されているものであるため、書類などで厚いものを綴じようとする場合に、第１湾曲部８と第２湾曲部９が同時に書類の端面に当るだけで、該第１湾曲部８と第２湾曲部９を押し開くことができない場合がある。そのため、厚いものを綴じるのに用いる場合は、予め、第１湾曲部８と第２湾曲部９を手で開いた状態にして厚いものに挟持させるようにしなければならず、書類などの厚いものには不向きであるという問題がある。

【００１２】

そこで、本考案は、比較的厚いものにも容易に挟持させることができると共に、挟持後は、保持力を有して書類などからの脱落を防止できるようにするクリップを提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【００１３】

本考案は、上記課題を解決するために、線材を直線部と曲り部が連続して形成されるように平面状に折り曲げて、長手方向の一端側に、長手方向の外側と内側の２つの湾曲部が形成され、且つ該２つの湾曲部から長手方向の他端側に直線部による挟持部が形成されるようにしてあるクリップにおいて、上記線材をばね材とし、且つ上記長手方向一端側における内側の湾曲部を、該湾曲部寄り位置の直線部でばね材を屈曲させることにより上方又は下方へ突出させるようにして、該突出させた湾曲部と上記外側の湾曲部との間を開くようにしてなる構成とする。

【００１４】

又、上記構成において、長手方向一端側における内側の湾曲部寄り位置のばね材の屈曲部位置を、上記湾曲部が突出する側とは反対側の所要位置まで突出させてなる構成とする。

【考案の効果】

【００１５】

本考案のクリップによれば、次のような効果を発揮する。

（１）線材を直線部と曲り部が連続して形成されるように平面状に折り曲げて、長手方向の一端側に、長手方向の外側と内側の２つの湾曲部が形成され、且つ該２つの湾曲部から長手方向の他端側に直線部による挟持部が形成されるようにしてあるクリップにおいて、上記線材をばね材とし、且つ上記長手方向一端側における内側の湾曲部を、該湾曲部寄り位置の直線部でばね材を屈曲させることにより上方又は下方へ突出させるようにして、該突出させた湾曲部と上記外側の湾曲部との間を開くようにしてなる構成としてあるので、長手方向一端側の屈曲した湾曲部とその外側の湾曲部と、綴じようとする書類などの端に向けて外側の湾曲部を書類などの片面に押し当て、更に押し付けるような力をかけることにより、屈曲させられている湾曲部と外側の湾曲部との間が広げられ、書類などが厚いものであっても屈曲している湾曲部がガイドとして書類などの端部を摺動できて円滑に書類

などの反対面に内側の湾曲部を移動させることができる。これにより、書類などが厚くても容易に挟持させることができ、挟持後は、ばね材の弾性で十分な挟持力をもって保持できる。
（２）上記（１）により、クリップが書類などから脱落することを防止できる。
（３）更に、長手方向一端側における内側の湾曲部寄り位置のばね材の屈曲部位置を、上記湾曲部が突出する側とは反対側の所要位置まで突出させてなる構成とすることにより、内側の湾曲部を屈曲させる屈曲部による押圧力により、より高い保持力が得られ、書類などの厚みが厚い場合でも十分な挟持を行うことが可能となる。
【考案を実施するための最良の形態】
【００１６】
以下、図面に基づき本考案を実施するための最良の形態を説明する。
【００１７】
図１（イ）（ロ）（ハ）は本考案の実施の一形態を示すもので、弾性を有する線材、たとえば、ばね材１５を、直線部と湾曲部が連続して形成されるように平面状に折り曲げて、長手方向の一端側に、外側と内側の２つの湾曲部１６，１７を、又、長手方向の他端側に、湾曲部１８をそれぞれ形成し、且つ上記外側の湾曲部１６に連続するばね材１５の直線部１９ａ，１９ｂと、上記内側の湾曲部１７に連続するばね材１５の直線部２０ａ，２０ｂとを平行となるように配置して挟持部２１を形成するようにしたクリップ本体２２を構成する。
【００１８】
更に、上記クリップ本体２２の挟持部２１の一端側となる２つの湾曲部１６と１７が形成されている部分を、挟持側端部２１ａとして、内側の湾曲部１７を、該湾曲部１７寄り位置でばね材１５の直線部２０ａ，２０ｂを一方向に折り曲げることにより斜め上又は下向き（図１では斜め上向き）となる形状として、屈曲した湾曲部１７の外側面（図１（ロ）では下面）がガイド面となるようにする。又、上記挟持側端部２１ａの外側の湾曲部１６を、綴じようとする書類などの片面への当接部として機能させるようにして、該湾曲部１６と屈曲した湾曲部１７との間から書類などを挟持させるようにする。
【００１９】
なお、上記屈曲させた湾曲部の長さ、すなわち、屈曲部２３から湾曲部１７の頂部までの長さは、任意に決めることができるが、たとえば、クリップ本体２２の長手方向の長さ寸法の約５分の１程度、あるいはそれよりやや長い寸法とすることが好ましい。
【００２０】
本考案のクリップは、上記構成としてあるので、複数枚の書類などを一時的に綴じておくために、本考案のクリップを使用するときは、図２（イ）に示す如く、クリップ本体２２の長手方向他端部の湾曲部１８側を把持して、クリップ本体２２の挟持側端部２１ａの外側の湾曲部１６を、綴じようとする複数枚の書類２４の片面に当接させながら矢印（ａ）の方向にクリップ本体２２を押圧させるようにする。これにより、挟持部２１の直線部２０ａ，２０ｂが、把持している指で直接的に押されて、湾曲部１６と１７の間が徐々に開く。この状態でクリップ本体２２を書類２４の方向へ移動させることにより、図２（ロ）に示す如く、屈曲した湾曲部１７のガイド面が書類２４を摺動し、書類２４とクリップ本体２２の相対変位でクリップ本体２２の挟持部２１に書類２４が挟まれて行き、該挟持部２１で書類２４が両面から挟持されることになる。この際、本考案のクリップは、ばね材１５で構成されているので、クリップ本体２２の挟持部２１が書類２４の厚みで拡がっても、復元力が大であるため、書類２４が厚くても十分な保持力が得られ、クリップ本体２２が書類２４から脱落することを防止することができる。
【００２１】
書類２４を綴じた状態の本考案のクリップを、書類から取り外すときは、屈曲させた湾曲部１７の先端側が書類２４から離れているので、容易に指を掛けることができ、簡単に書類２４から取り外すことができる。
【００２２】

次に、図３は、本考案のクリップの実施の他の形態を示すもので、クリップ本体２２の挟持側端部２１ａにおける内側の湾曲部１７の屈曲部２３を、屈曲した湾曲部１７の突出方向とは反対側に、所要量突出させた形状を初期形状として保持させるようにしたものである。

【００２３】

又、上記構成において、内側の湾曲部１７の頂部と屈曲部２３との間の長さ寸法は、図１に示す実施の形態のものと同一寸法としてもよく、屈曲部２３を湾曲部１７の突出方向と反対方向に突出させる量に応じて長くするようにしてもよい。

【００２４】

その他の構成は、図１（イ）（ロ）に示すものと同じであり、同一のものには同一符号が付してある。

【００２５】

この実施の形態によれば、複数枚の書類２４を綴じるときの要領は、前記した実施の形態の場合と同様であるが、書類２４を綴じたときに屈曲部２３による押圧力が書類２４に付与されることにより、より高い保持力を得ることができるという利点がある。

【００２６】

なお、本考案は上記実施の形態のみに限定されるものではなく、たとえば、クリップ本体２２の長手方向両側の湾曲部１６と１８はほぼ同じ大きさのものとして示したが、一端側の湾曲部１６側を拡径とした形状のものにも適用させることができること、クリップ本体２２の他端側を湾曲部１８とした例を示したが、湾曲部に代えて角形に屈曲させたものとしてもよいこと、その他本考案の要旨を逸脱しない範囲内で種々変更を加え得ることは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【００２７】

【図１】本考案のクリップの実施の一形態を示すもので、（イ）は平面図、（ロ）は（イ）の側面図、（ハ）は（イ）のＡ－Ａ断面図である。

【図２】本考案のクリップの使用時の状態を示すもので、（イ）は書類を綴じるときの最初の段階を示す概略側面図、（ロ）は書類を挟持し始めた状態を示す概略側面図である。

【図３】本考案のクリップの実施の他の形態を示す側面図である。

【図４】従来一般に市販されているクリップを示すもので、（イ）は平面図、（ロ）はその側面図である。

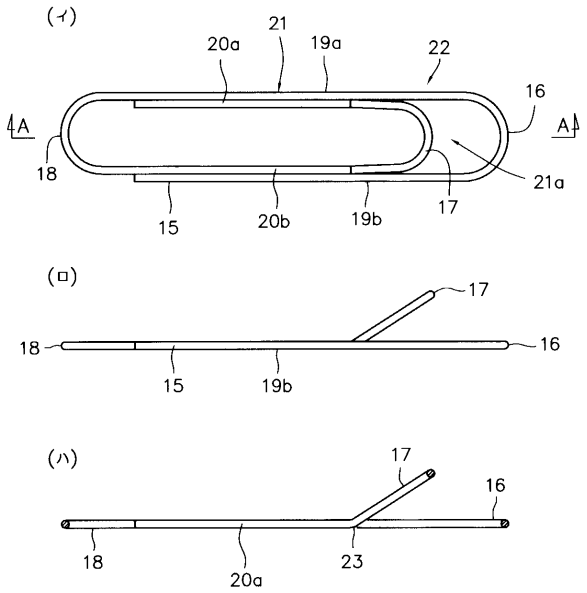
【図５】従来のクリップの一例を示すもので、（イ）は平面図、（ロ）はその側面図である。

【符号の説明】

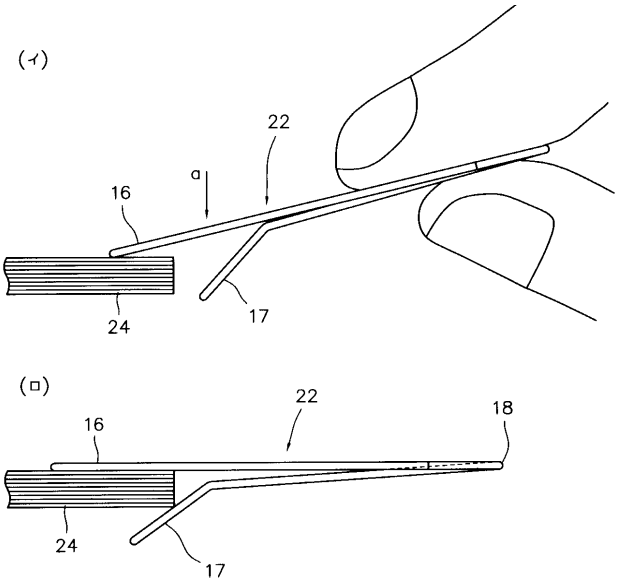
【００２８】

１　線材
１５　ばね材
１６　湾曲部
１７　湾曲部
１９ａ，１９ｂ　直線部
２０ａ，２０ｂ　直線部
２１　挟持部
２１ａ　挟持側端部
２２　クリップ本体
２３　屈曲部
２４　書類

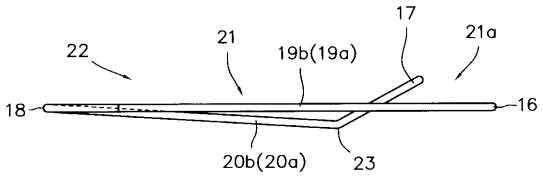
【図１】


(イ)
20a
21
19a
22
16
A
A
18
21a
15
20b
19b
17
(ロ)
17
18
16
15
19b
(ハ)
17
16
18
20a
23

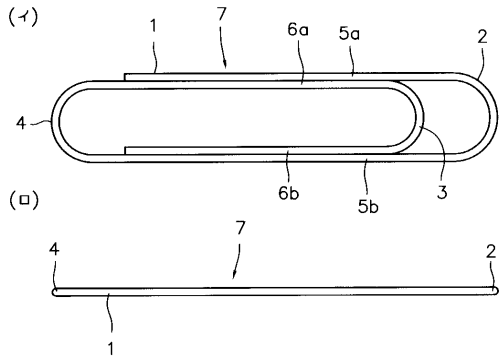
【図２】


(イ)
22
a
16
24
17
(ロ)
22
18
16
24
17

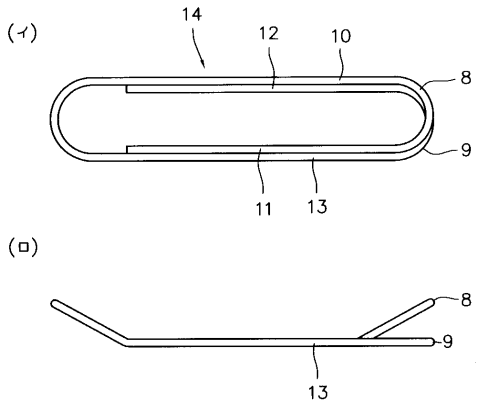
【図３】


17
21
21a
22
19b(19a)
18
16
20b(20a)
23

【図４】


(イ)
1
7
6a
5a
2
4
6b
5b
3
(ロ)
7
4
2
1

【図５】


(イ)
14
12
10
8
9
11
13
(ロ)
8
9
13